

つくしだより



東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2020.2.15 第355号

令和2年2月号

家族会訪問にご協力を

ありがとうございました

都連副会長 本田 道子

今年度のつくし会の活動のひとつとしてそれぞれに活動中の家族会に理事の訪問をさせてもらいたい、と計画をしました。

手をあげてくださった単会への訪問は29単会と今までで最高の訪問回数となりました。

どちらの家族会でも気持ちよく迎えていただきありがとうございます。

まだ これからの家族会もあるのですがほぼ日程が終りに近づきました。

今回この計画をしたのはつくし会に理事を出して下さっているとこの家族会は理事を通して日頃のつくし会の活動の様子をお伝えできているように思うのですが、理事のいない単会にとってはつくし会の活動が十分には伝わっていない、のではないか、と思うところがあったからです。

つくし会が遠い存在になってしまっていないだろうか、という心配もありました。

もちろんつくし会ではブロックとい

う制度も作り年に2回は東・西・多摩の3地区に分けて報告や交流などで家族会が元気に活動できるように、と考えてはいるのです。

それと近年は家族会も高齢化の波には勝てず、後継者が見つからない、ということでも家族会そのものがなくなってしまう、ということが出てしまいました。とても残念でなりません。もう少し早い段階に相談をうけたり一緒に考えたりしたい、と思いました。

「東京は広い!!」

足立区から青梅市、羽村市、福生市、瑞穂町など訪問して感じた実感です。

つまり地域によって状況がかなり違ってくる、が実感としてわかりました。

そしてどこの家族会にも悩める家族の皆様がお出ででした。

23区と市・町の差だけではなく23区内でも区による特性の違いがあきらかにできてきました。

その理由はまだ調べていないのでわかりませんが保健所との関係も大いに関係もありそうです。

また地域の社会福祉協議会と良好な

関係作りをしていてサポートしてもらいながら活動が活発な家族会・地域活動支援センターとの密接な関係作りをしながら、地域に役立つ家族会作りをしている地区もあり参考になりました。

多摩地区では社会資源といわれる施設の数や交通の問題など23区内とは違った問題を抱えながらも、リーダーの方々の熱心な活動に頭が下がりました。また相互に交流しあいい例会にもお互いに参加しあって情報交換も密接でとてもいいな、と感じました。

そしてどこの家族会でも例会の場所の確保・財源のこと・役員のなり手がいないこと、新しい会員が増えないことなど「共通の頭の痛い」問題を抱えていました。

家族会を必要としている方は確実にいますし家族会が重要な「社会資源」であることは不変です。

大きな意味のある社会的にも重要な家族会活動です。

つくし会では引きつづき来年度も同じく訪問をさせていただきますと願っております。(感謝をこめて)

高山秋雄元都連会長をしのいで

都連会長 眞壁 博美

高山秋雄元東京つくし会会長が、1月6日に92歳で逝去されました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

高山氏は、17歳で少年兵に志願し、海軍航空隊に配属され、特攻隊員として出撃を準備していたときに敗戦となりました。戦争の愚かしさを知り、平和の大切さを訴え、戦争資料の展示や資料館の建設に向けて様々な運動に参加されました。40年間の教員生活でも子どもたちとのつながりを大切にされてきました。家庭では、父・姉・弟の3名が精神疾患を抱えるという困難な状況でした。

1963年に「烏山病院患者家族会・あかね会」を結成し初代会長に就任し、全家連結成、東京つくし会結成にも尽力されました。1968年つくし会発足時は副会長に就任しました。1971年から7年間と1992年から12年間、計19年間東京つくし会の会長として活躍されました。

私は、2000年に都連の理事に就任しました。その年の7月、「都連リーダー研修会」が「ハートピアきつれ川」に1泊して行われ、夜遅くまで皆さんと交流できたのがとても懐かしく思い出されます。

私が野村前会長から東京つくし会の会長

を引き継ぐ時に、高山氏から、私の夫に「奥さんの活動を、家庭で支えてあげてください」とお願いの電話がありました。どんなに本人が頑張ろうとしても、パートナーの理解・協力が得られなければ長続きしないし、うまくいかないことが分かっていた高山氏ならではの配慮でした。先輩から引き継いだ東京つくし会を守り・発展させるために頑張ろうと気持ちを引き締めました。



(写真左側が故高山秋雄氏です。つくし会創立50周年記念誌でインタビューしたときの写真です。右側は前会長野村忠良氏)

令和元年度東ブロック相談員養成講座及び第2回ブロック会議報告

都連副会長 轡田 英夫

◆相談員養成講座

日時・令和2年1月12日 午前10時～12時

場所・東京都戦没者霊園会議室

参加者・7単会10名 講師 羽藤邦利先生

戦没者霊園は地下鉄後楽園や春日から近く、便利の良い所です

事例検討では、単会から出た質問事項に羽藤先生からの指導をいただきました。

(事例一) 対人関係がうまく作れず、引きこもっている39歳の娘さんを持つ母親から。

(指導) 発達障がいのお子さんは失敗体験の繰り返しで、対人恐怖になっています。小さな成功を繰り返して、褒めてやることを積み重ねていくことが必要です。

(事例二) 水中毒を直すには？

(指導) 水の飲みすぎで、希釈性低ナトリウム血症をおこしている状態で、毎日500mlの水で3日間過こせば治ります。

(事例三) 統合失調症の既婚で一児の子を持つ娘さんの母親から。もう一子欲しいと言っているが病気のこともあり反対したい。

(指導) 出産・育児と病気の再発は直接関係しません。夫婦の判断にまかせ、それを社会資源の有効活用等でサポートしましょう。

◆第2回ブロック会議

時間 午後0時45分～4時

場所 同じ場所

参加 10単会21名

つくし会より 眞壁会長 本田副会長出席

各単会の活動報告の後、会員の高齢化及び会員が増えない、役員のなり手がなく、8050問題等を話し合いました。仕事の内容を洗い出し、複数で分担して行うことが継続の径ではないかという話が出ました。



むさしの会家族会を訪問して

都連副会長 植松 和光

12月21日、午後1時30分から国立精神神経研究センター病院家族会の忘年会兼家族交流会に参加させていただきました。つくし会からは、安藤理事も参加しました。

会場は、西武多摩湖線の萩山駅から歩いて10分ほどの所にある国立精神神経研究センター中央館3階コスモホールで行われました。

研究センターの敷地はとても広く、会場のある病棟に行くまでは林の中を通り抜けていくほどで、途中にはまだ紅葉が残っており自然が豊かなところだなと思いました。

当日は都甲副会長の司会で始まり、住本会長が挨拶をしました。挨拶の中で、センター病院には会場を借りることも、学習会での講師のお願いなど本当にお世話になっていることが話されました。会員数は120名ほどで会の活動の中心は精神疾患に関する学習会を行っているそうです。

忘年会にはスペインのフラメンコギター奏者の温田昌則さんや星美智子さんと友人に依る“安らぎコンサート”サーナ(Sana)さんの歌と演奏ありで、素晴らしい感動の音楽の世界に引き込まれていました。

この会には45名程の会員の方が参加され楽しくコンサートにはまっていました。皆さま

さん日頃の疲れを癒せたのではないでしょう。か。私も久しぶりに生の音楽を聴けて本当に楽しかったです。

むさしの会の皆様本当ありがとうございました。これからもご活躍ください。



家族会訪問

江戸川区「かたくりの会」

都連理事 安藤 万寿代

1月19日(日)「かたくりの会」の新年食事に副会長巒田さんと一緒に訪問しました。

会場は船堀タワーホールつきじ「うえ村」です。事務局高木むつ美さんの司会で進められました。先ず、開会の挨拶があり次に代表川島和子さんのご挨拶と東京つくし会の巒田さんと安藤の紹介をして頂き、新年会らしい和食の会食会で賑やかに行われました。食事を終えティタイムに入りましたので、

巒田さんから最近の東京つくし会の様子を話して頂きました。活動報告やこれからの行事予定・講演会への参加の呼びかけをいたしました。

次に会員の一言挨拶で、参加者全員(15人)の自己紹介をしながら、近況報告をいたしました。「出身が秋田県です」「松沢病院に娘が通院しながら自宅療養しています」「親が高齢のため、自宅に当事者の娘がいると助かります」「様々な支援を受けて一般就労して2年になります」「なかなか当事者の息子は自立しなく親と同居しています」等、話されました。私からも「当事者の息子は松沢病院へ通院しています」と話し、共感を得てとても楽しい会でした。若い方や男性の方が2人おられて、会としても大変充実した会と思われ

ます。

「かたくりの会」は2003年に結成され、以来、行政の協力を得て精神障がいを持つ人たちの社会福祉と自立のために積極的な活動を続けられています。また、家族たちの相互の相談や支援に努めているとのこと。

家族会の行事は月例会での相談会・年4回以上の機関誌発行・年2回の公開講演会・年1回の研修会も行われ、地域との連携は江戸川区社会福祉協議会への協力も行われています。

これからも家族会のご活躍を期待します。

寄稿 ゆめ見る頃は過ぎても その2

都連副会長 本田 道子

12月号に載せた「夢見る頃」が思いがけなくたくさんの方からの反響がありました。感想をお寄せくださいました皆様ありがとうございます。ございます。

息子には上の二人の女の子の子育てとは違う楽しみをもらった。
幼いころのポケットいっぱいのダンゴ虫・

石ころ・恐竜・そして大きな夢。

でも彼は発病しひきこもり状態に。

そして夢は遠くになった。それは親も同じでも

それは過去の話。

今揺れつつづけている障がい、という事実。間もなくのりこえることでしょう。

過去は変えられない。

けれど未来は彼のもの。

「ゆめ見る頃は過ぎても」リ・スタート。

時は春。やわらかな風とあたたかな見守りの支援のまなざし。

まもなく作業所の通所が始まる。

障がいを抱きしめながら。

あたらしい夢のはじまり。



講演会のお知らせ

☆3/14(土) 13:30~16:00 精神疾患の治療と回復について

講師：大泉病院社会医療部長・精神科医 山澤涼子氏

会場：武蔵野市西久保コミセン 大会議室 主催：武蔵野市第二金曜会 ☎090-5496-8709

☆3/14(土) 地域生活を支える多機能型精神科診療所

講師：錦糸町クボタクリニック院長・精神科医 窪田 彰氏

主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788 会場：新宿区立障害者福祉センター

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会費（敬称略）☆
石井メンタルクリニック 5000円
ありがとうございます。



編集後記

平成23年（2011年）の東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市から感銘を受けた話をご紹介したい。陸前高田は街ごと跡形もなくなり、多くの人が亡くなった。市役所職員の多くも被害に遭い、亡くなった。市庁舎の大半が水に浸かり、保管されていた住民に係る書類も流失した。「新陸前高田市障がい者福祉計画」を含む資料も基礎データも全くなかった。障がい者福祉計画等を推進する担当部署の社会福祉課障がい福祉係の職員も全員交代した。担当係長は、どのよう
に情報を収集・整理し、どのような考え方を
づいて障がい者福祉計画を策定していった
らよいか分らず途方にくれていた。市長
の戸羽太氏は3選目の市長選を勝ち取った
が、障がい者計画の目標として、「ノーマラ
イゼーション」という言葉のいらぬまちづく
り」を公約として打ち出した。障がい者総
数は、震災後1244名（前年比約300名
減）3障がい合計（手帳ベース）であるが、
市独自の施策としてノーマライゼーション
という言葉を使わなくても当たり前前にノ
ーマライゼーションが出来ているまちづくり
をめざすもの。その中心施策は「当事者参画
の推進」で、障がいがある本人に関ること
を検討する場合には、障がいがある本人
が参画することとした。（文中の「障がい」と言
う表現は市長の考え方）

都連理事 松沢 勝

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。